

芸術学科

芸術学への真摯なアプローチ

設置講座

講座番号 / 102-0280

東京芸大・観賞論文コース

7月29日(月)~8月2日(金) / 9:30~16:30 ※5日間

東京藝大芸術学科および筑波大芸術専門学群や東京学芸大B類美術の2次試験頻出の「作品観賞」論文について、その基礎から応用までを集中的に学習するコース。作品観賞の学術的ポイントに的を絞った問題演習と解説講義によって、単なる好き嫌いや感覚を超えた明確な論述の方法を習得していきます。

月	日	曜日	カリキュラム	
7	29	月	論文① 演習	論文① 解説
	30	火	論文② 演習	論文③ 演習
	31	水	論文④ 演習	論文② 解説
8	1	木	論文⑤ 演習	論文③ 解説
	2	金	論文④ 解説	論文⑤ 解説

講座番号 / 102-0281

東京芸大・英語&歴史コース

8月5日(月)~8月9日(金) / 9:30~16:30 ※5日間

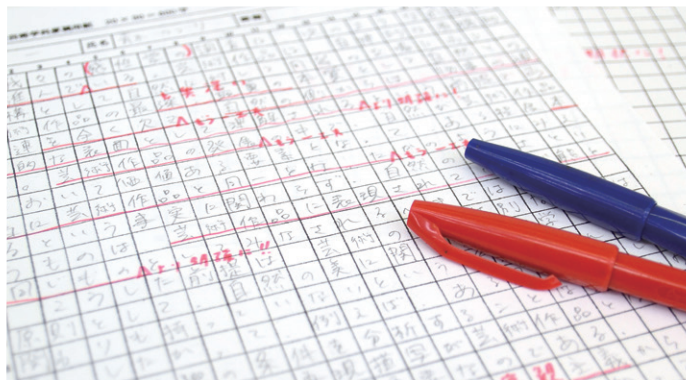
東京藝大芸術学科の2次試験で課される英文和訳(翻訳)と歴史論述(日史・世史選択)について、その基礎から応用までを集中的に学習するコース。構文読解に基づく英文の精読と和訳の表現、教科書レベルの知識に基づく歴史論述のポイントを、この夏にぜひ習得しておきましょう。

月	日	曜日	カリキュラム	
7	5	月	英語① 演習	歴史① 演習
	6	火	英語② 演習	歴史② 演習
8	7	水	英語③ 演習	英語① 解説
	8	木	歴史③ 演習	歴史① 解説
	9	金	英語②③ 解説	歴史②③ 解説

東京藝大芸術学科の合格に向けて

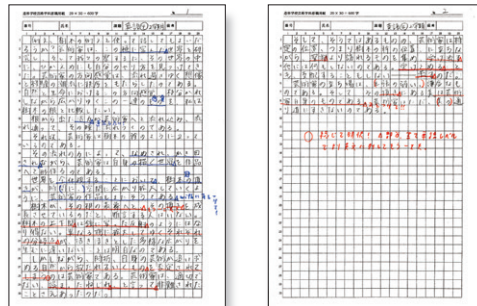
東京藝大の入試は、大学入学共通テストと2次試験が課されます。芸術学科の定員20名という狭き門を突破するためには、共通テストだけでなく2次試験も高得点が必要とされています。2次試験での論述力を重視している藝大芸術学科であるため、日頃から問題に解答できるような力を養う必要があります。

日本語も含めて、言葉に関しては「話す」「聴く」よりも、「読む」「書く」能力の方が優れている場合が少なくありませんし、研究者としては後者の方がむしろ有望なのです。国立大学の中でも最も本格的な論述を課す藝大芸術学科に合格するために、造形学校芸術学科の伝統あるプログラムを、今こそ活用していただきたいと思えます。



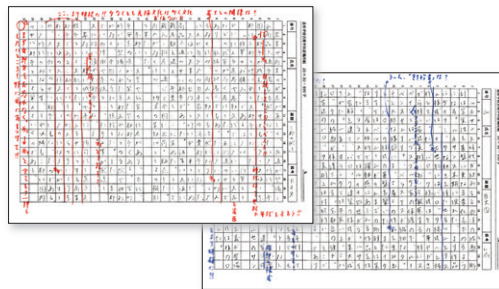
英語

美術史・美学の根幹を形づくる原書の講読。それは決してベダンティックな色合いのものではなく、芸術・美術に関する思考の幅を広げる有用な方法です。欧米人の手になる美術関連の著作は、現代の日本に生きるわれわれにとっても大いに刺激となります。そうした英文の内容を汲み、どこまで的確な日本語に翻訳できるか。芸術学で求められる「英文和訳」は単なる英文解釈にとどまらない感性的表現なのです。



歴史

個々の天才たちによって創り出される芸術作品。しかし優れた作品というものは決して一個人の力量にとどまるものではありません。その背景には人類の歩みの滔々たる流れがあります。文化史を軸に、作品・作者・社会の関係をダイナミックに捉え直すためにも、歴史的思考と論述は芸術学にとって不可避の課題。教科書ベースの必要不可欠な知識を基に「考え、かつ記す」という地道な作業から、芸術・美術に関する深い思索が生まれるのです。



論文

言葉の届かぬ先に絵画が、音楽がある。よく言われることながら本当でしょうか。絵画を、音楽を、理解し記述し得る言葉を、多くの人はまだ見つけていないとは言えないでしょうか。芸術学の論文の中心は造形作品の特質を記述することにあります。「造形的特質」の記述。そのための言葉と感性を育むこと。作品に対する深い理解は必ず言葉を伴うものです。そうした言葉の積み重ねによって、自らの感性も思いがけない広がりを持つのです。

